



岡本 榮三郎

能勢町における今後の消防体制について

問 大阪府内(43市町村)33市9町1村の中で、消防の非常備団体が能勢町(1町)のみであるという現状をかんがみ、能勢町における今後の消防体制のあり方について、町長の所見をお聞きします。1点目は、消防の広域化に対する能勢町としての取り組みと、大阪府北部ブロックにおける消防広域化の現状と、今後の見通しについて。

答 大阪府は府内市町村消防の消防推進化推進計画を策定し、平成20年8月に大阪府北部ブロック消防広域化検討会を設置し、平成21年11月に構成市町の意見を受け、今年度中には今後の取り組みの方向性が示されると、お聞きしております。広域化が取り組めればそれだけでも、豊中市、池田市、箕面市、豊能町それぞれ消防署を持っておられる。その中で各消防署の財政

的なことから、体制の問題から本町がそこへ広域化に入れてもらうということについては、かなりハードルが高いことだけは確かでございます。ならばそれにかわる手段をしなければならぬということと、近隣自治体との「消防相互応援協定」等を締結しておりまして、豊能町、川西市、猪名川町と近隣との協定の中で対応していきたいと思っております。

問 2点目は、消防の広域化が実現できなかった場合、能勢町単独での常備消防の計画があるか。

答 なかなか即常備の消防署をつくるというのは苦しいかなというふうに考えておるところでございます。

問 総務省、消防庁は2007年度から市町村に対して、特別交付税措置とか地方財政措置、あるいは地方債措置とか、補助金の交付等特別の配

慮をしても財政支援措置を講じていきますと、いつているわけですけれども、こういったさまざまな措置を考慮しても能勢町としては無理でしょうか。

答 我々も絶えず広域消防ということができるものであれば、そのようにやるといことは、決めております。ただいろんな財政的なことから諸事情がございます。ほかのことの温度差がございます。当面どうすべきかということ考えた中で将来そういう方向性に向かつて考えてまいりたいというふうに考えております。本当にいい御意見ありがとうございます。



一般質問



今中 喜明

一、中高一貫教育について 二、町内の中小河川の現状と整備計画について 三、公共施設の利用に対する使用料について

問 中高一貫教育について現状と課題を問う。

答 (教育長)平成14年度より小中高一貫教育を展開してまいりました。当初は教職員間の連携が主でありましたが、ここ数年はできるだけ子ども同士の連携による高まりを重視してきた。しかしながら、児童生徒数の減少により教職員の配置数が減り、年々実施することが困難な状況にもなってきている。

問 本年度能勢高の入学者が定数に満たなかったことについて、中高一貫教育に問題があるのか？課題を問う。

答 一つは多様な進路選択、エリアの拡大による進路指導の困難さ、二つには連携型入学選択方法に課題があるのかとも考えておりますし、昨今の教員の異動に伴い、それぞれの中学校でその趣旨等の継承が不十分であることが原因と考える。

今後も能勢高校の取り組みなど情報を積極的に提供して、子どもたちの進路選択の前向きな材料を提供していくことを強める必要があると考える。

問 町内の中小河川(普通河川・能勢町管理)の現状と整備計画はあるのか。

答 準用河川が3河川と普通河川が34河川あり、協働での取り組みの一環として河川の清掃奨励金制度を設けて地域の方々に除草や清掃作業を実施していただいている。また、損傷等がある場合は維持工事により改修を適宜実施している。今回、日々の情報とパトロールの中で、今後二つの河川について総合的な観点から整備する必要があると考えている。国の補助事業の中の総合流域防災事業補助や、国の交付金制度を活用し現在、大阪府の方へ要望しているところである。(町長の一言)

中小河川の今後の取り組みとしては、維持・管理の重要性については、安易に気がついていないようであるが、意外と役場としてかわってこなかったことをおわび申し上げますし、区長さんと原課で現地に出向き実態を確認するとともに、できるだけ早い時期に対応していかなければならないと考えている。

問 公共施設の利用に対しての使用料の考え方や見直しはあるか、受益と負担の原則の下に決められていると理解しているが、がんばっている地域や団体に支援する方策はないのか。

答 各団体への補助金一律カットを財政上実施しているが、新しいこんな事業をするから町も支援してほしいという要望を私は待つているところであるし、町もそういった事業を誘導していかなければならないと考える。